

かよおかとうげ

通岡峠区間が解消して

約9割の交通量が高田道路に転換！！

平成21年3月15日に部分開通した 三陸縦貫自動車道「高田道路」の開通効果について（1年後）

平成21年3月15日に部分開通した「高田道路 L=3.4km」の開通1年後の効果について、お知らせします。

■交通量の変化について「別紙－①」

- ・高田道路へ**約9割の交通量が転換**しました。
（高田道路：9,849台/日、国道45号1,604台/日）

■安全性・快適性の向上「別紙－②」

- ・高田道路開通後1年間で**死傷事故件数が約半分に減少**しました。
（開通前：5.6件/年 → 高田道路と国道45号の合計：3件/年）

■救急医療の支援「別紙－③」

- ・救急搬送のルートが高田道路に転換し、**搬送者への負担が軽減**されています。
（救急搬送件数のほぼ100%が高田道路を利用）

～観光及び物流企業からのヒアリングより～

- ・高田道路の開通により所要時間が短縮し、水産物の輸送量が増加しました。
- ・燃費が向上し、輸送コスト削減されました。
- ・三陸沿岸を回る観光バスツアーが増加しました。
- ・道の駅高田松原の入り込み客数も増加しています。

発表記者会：岩手県政記者クラブ、大船渡記者クラブ、宮古記者クラブ、釜石記者クラブ、
久慈地区報道機関各社、東北専門記者会

【お問い合わせ先】

国土交通省東北地方整備局 三陸国道事務所（岩手県宮古市藤の川4-1）

副所長	伊藤 啓一	代表	0193-71-1711（内線204）
調査課長	武田 滋生	〃	（内線451）

高田道路位置図

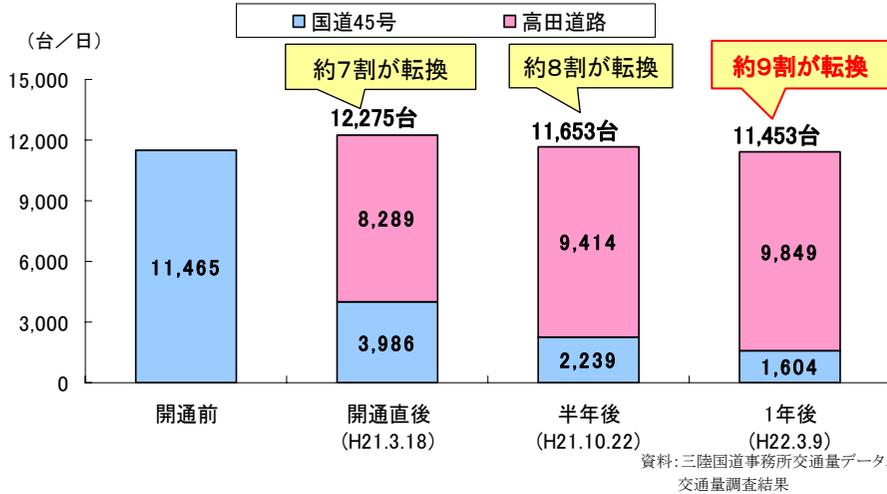


開通後の高田道路の状況



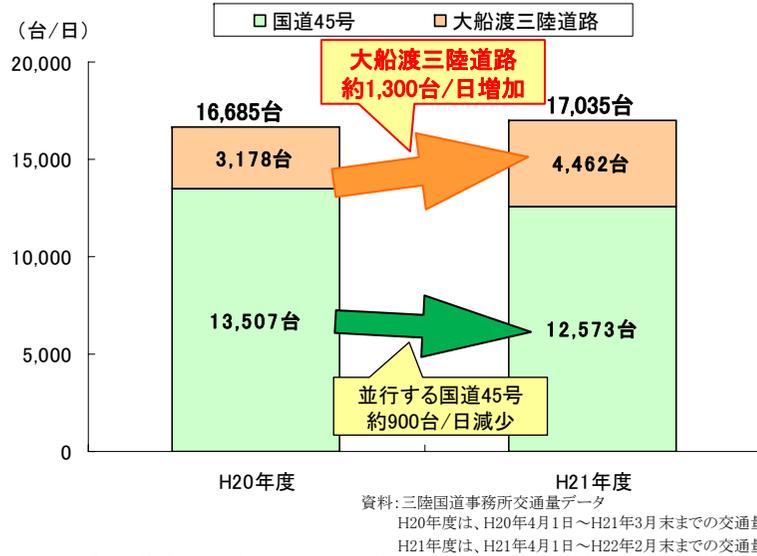
①交通量の変化について

○高田道路へ徐々に交通が転換



▲ 高田道路開通後の交通量の変化(高田道路および国道45号)

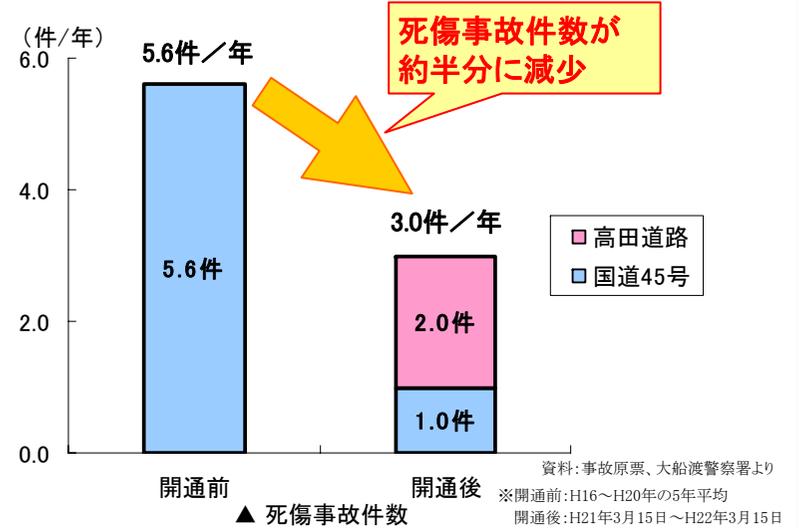
○ネットワーク効果により大船渡三陸道路の交通量増加



▲ 高田道路開通後の交通量の変化(大船渡三陸道路および国道45号)

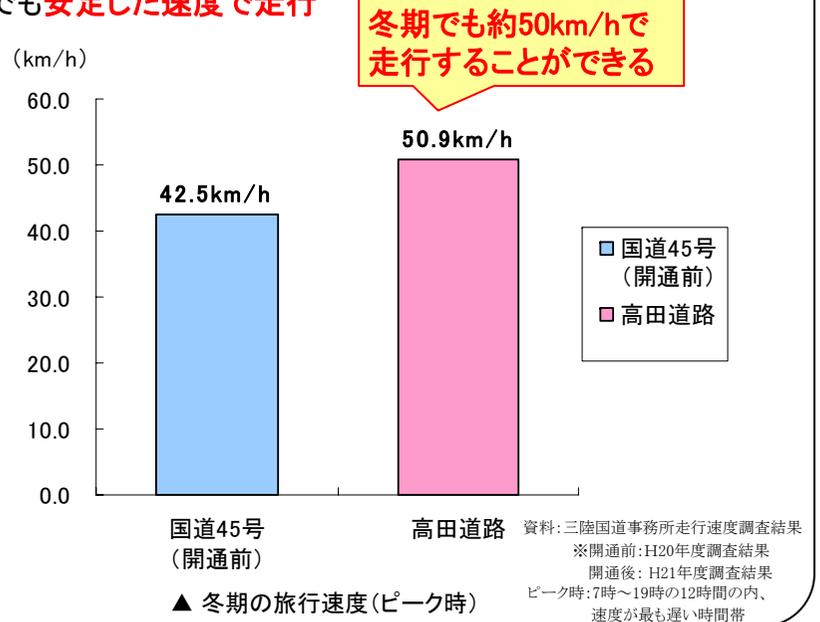
②安全性・快適性の向上

○通岡峠で死傷事故件数が減少



▲ 死傷事故件数

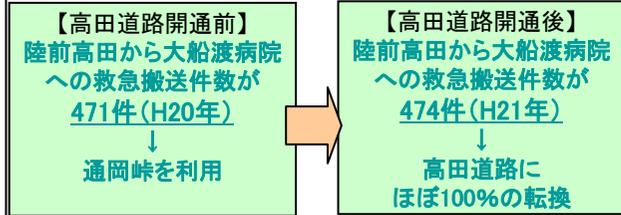
○冬期でも安定した速度で走行



▲ 冬期の旅行速度(ピーク時)

③救急医療の支援

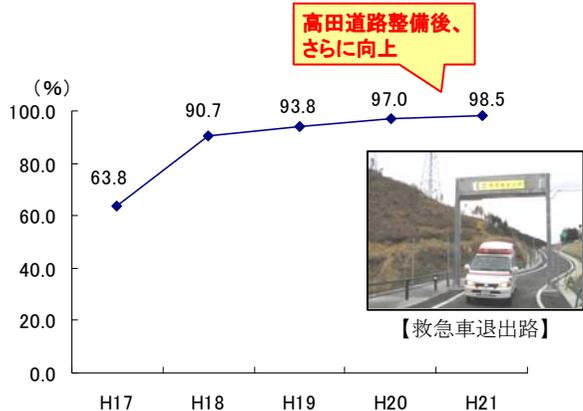
○大船渡病院への救急搬送ルートが高田道路に転換



資料:陸前高田市消防本部

▲陸前高田市から大船渡病院への救急搬送件数

○救急車退出路の利用率が向上



資料:陸前高田市消防本部

▲陸前高田市から大船渡病院への救急搬送における救急車退出路利用率

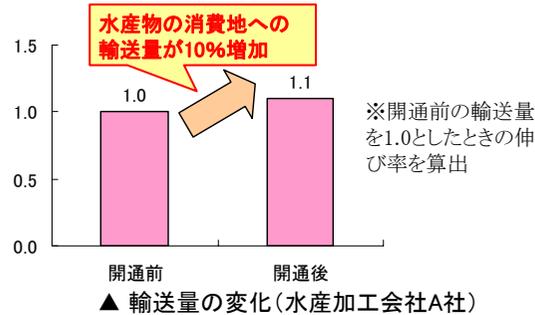
○時間短縮およびカーブ区間の減少により、搬送者への負担が軽減

・所要時間が10分程度短縮し、カーブ区間が少なくなったことで、搬送者への負担が軽減され、救急隊員やドライバーの負担も軽減された。
(陸前高田市消防本部ヒアリングより)

～観光及び物流企業からのヒアリングより～

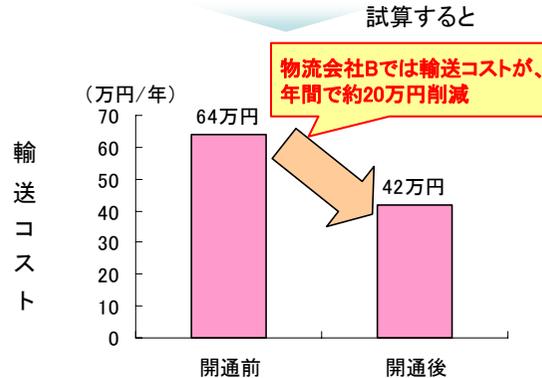
○所要時間が短縮し、輸送量が10%増加

- ・宮古市から「生わかめ」、「ボイルわかめ」、「茎わかめ」「冷凍秋鮭」等を加工し消費地(東京、大阪)へ輸送。
- ・所要時間が短縮して輸送のスピード化が図られたことで、消費地(東京、大阪)への輸送量が10%増加。
(水産加工会社A社ヒアリングより)



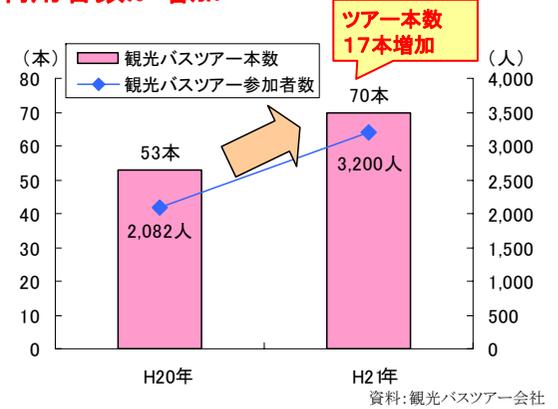
○輸送コストが年間約20万円削減

- ・気仙沼市から大船渡市、釜石市に石油製品全般を輸送。
- ・所要時間が短縮し、釜石から気仙沼に1時間40分位かかっていたが1時間30分で行けるようになった。
- ・燃費が3.00km/ℓから3.35km/ℓに改善した。
- ・全ての要因が高田道路開通の効果とはいえませんが、大きく影響している。
(物流会社B社ヒアリングより)



※輸送コストは、燃費(ヒアリング結果)、高田道路開通区間(3.4km)、軽油単価(H21年度岩手県と宮城県の平均:103円)から算出

○三陸沿岸を回る観光バスツアー本数と利用者数が増加



▲観光バスツアーの運行本数と利用者数

- ・ツアー本数と利用者数増加の要因として、三陸沿岸の人気と高田道路を含む道路整備が進んだことが影響している。
(観光バスツアー会社ヒアリングより)

○道の駅高田松原の入り込み客数も増加



※各年の入込客数は4月～12月の合計値

▲道の駅高田松原の入込客数の推移

- ・県外ナンバーの自動車が増えており、来訪エリアが拡大している。
(陸前高田市商工観光部ヒアリングより)